

100冊

友だちできるかな？

図書館司書が選んだ

子どもに読んでほしい本 100選

(乳幼児向け)

子どもの読書は…

子どもは面白い本に出会うと、その本の世界に入り込み、主人公とともに冒険をします。主人公が危険な目にあうとドキドキし、ゆかいなできごとには大笑いし、幸せな結末に心から満足します。

子どもたちは、読書によって様々な出会いを経験することになります。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。読書が習慣化すると、学ぶ力が育つことはもとより、人生をより深く、心豊かに生きる力が身に付きます。

ここに紹介する100冊の本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。家庭で過ごすひととき、お子さんと一緒に本を読んでもみませんか？

乳幼児期の読み聞かせはお子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないのでしょうか。



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

千葉県教育委員会

小学校 1・2年 みどりいろのたね たかどのほうこ 太田大八 絵 福音館書店 きえた犬のえ(ぼくはめいたんてい) マージョリー・W・シャーマット ぶん マーク・シマント 文 光吉夏弥 やく 大日本図書★ おおきくなりすぎたくま リンド・ワード 文・画 渡辺茂男 訳 ほるぷ出版	「王さまと九人のきょうだい」 赤羽末吉 絵 君島久子 訳 岩波書店 「エルマーのぼうげん」 ルース・スタイルス・ガネット さく わたなべしげおやく 福音館書店★ 「ちいさいおうち」 ぼーじにあーりー・ぼーとん ぶんとえ いしいももこ やく 岩波書店 「ベレのあたらしいふく」 エルサ・ベスコフ さく・え おのであゆりこ やく 福音館書店 「こいぬがうまれるよ」 ジョアンナ・コール 文 ジェローム・ウェクスラー 写真 つばいいくみ 訳 福音館書店 「あおい目のこねこ」 エゴン・マチーセン さく・せたていじ やく 福音館書店	「おいしいのぼうげん」 ふるたたるひ、たばたせい いち さく 童心社 「ひとまねこぎると きいろいぼうし」 H.A.レイ 文・絵 光吉夏弥 訳 岩波書店★ 「たんぼぼ」 平山和子 ぶん・え 福音館書店 「ピーナッツなんきんまめ らっかせい」 こうやすすむ 文 中島睦子 絵 福音館書店 「すずめのくつした」 ジョージ・セルデン ぶん 光吉郁子 やく 大日本図書 「番ねずみのヤカちゃん」 リチャード・ウィルバー さく 松岡享子 やく 大社玲子 え 福音館書店	「はじめてのキャンプ」 林明子 さく・え 福音館書店 「なぞなぞのすきな女の子」 松岡享子 さく 大社玲子 え 学研 「ロバのシルベスターと まほうの小石」 ウィリアム・スタイク さく せたていじ やく 評論社 「子どもに語る日本の昔話」 稲田和子、筒井悦子 再話 こくま社
小学校 3・4年 ものくさトミー ペン・デュボア 文・絵 松岡享子 訳 岩波書店 大どろぼうホツェンブロッツ オトフリート=プロイスラー 作 中村浩三 訳 偕成社★	「小さなスプーンおばさん」 アルフ=ブリュイセン 著 大塚勇三 訳 学研★ 「火曜日のごちそうは ヒキガエル」 ラッセル・E・エリクソン 作 佐藤涼子 訳 評論社★ 「版画のはらうた」 くどうなおこのはらみん 詩 ほてはまたかし 画 童話屋★ 「がんばれヘンリーくん」 ペバリー・クリアリー 作 松岡享子 訳 学研★ 「スーホの白い馬」 大塚勇三 再話 赤羽末吉 画 福音館書店	「時計つくりのジョニー」 エドワード・アーディゾーニ 作 あべきみこ 訳 こくま社 「セロひきのゴーシュ」 宮沢賢治 作 茂田井武 画 福音館書店 「ぼくは王さま」 寺村輝夫 作 理論社 「ホリーとはらべこオオカミ」 キャサリン・ストー 作 掛川藤子 訳 岩波書店★ 「百まいのドレス」 エレナー・エスティス 作 石井桃子 訳 岩波書店	「長くつ下のピッピ世界一 つよい女の子」 リンダグリーン 作 大塚勇三 訳 岩波書店★ 「くまのパティント」 マイケル・ボンド 作 松岡享子 訳 福音館書店★ 「ゆかいなホームくん」 ロバート・マックロスキー 文・絵 石井桃子 訳 岩波書店 「イギリスとアイルランドの昔話」 石井桃子 編・訳 福音館書店
小学校 5・6年 絵で読む広島の原爆 那須正幹 文 西村繁男 絵 福音館書店 「シャーロットのおくりもの」 E.B.ホワイト 作 さくまゆみこ 訳 あすなる書房	「ライオンと魔女 (ナルニア国ものがたり1)」 C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳 岩波書店★ 「クロディアの秘密」 E.L.カニグズバーグ 作 松永ふみ子 訳 岩波書店 「だれも知らない小さな国 (コロボックル物語1)」 佐藤さとる 作 講談社★ 「冒険者たちガンバと15ひきの仲間」 斎藤孝夫 作 岩波書店★ 「わらしべ長者 日本民話選」 木下順二 作 岩波書店	「ルドルフとイッパイアッテナ」 斎藤洋 作 講談社★ 「魔女の宅急便」 角野栄子 作 福音館書店★ 「モモ」 ミヒャエル・エンデ 作 大島かおり 訳 岩波書店 「二分間の冒険」 岡田厚 著 偕成社 「ふたりのロッテ」 ケストナー 作 高橋健二 訳 岩波書店	「魔法使いのチョコレート・ケーキ」 マーガレット・マービー 作 石井桃子 訳 福音館書店 「チョコレート工場の秘密」 ロアルド・ダール 作 柳瀬尚紀 訳 評論社 「トムは真夜中の庭で」 フィリパ・ピアス 作 高杉一郎 訳 岩波書店 「アラスカたんけん記」 星野道夫 文・写真 福音館書店 「二年間の休暇」 J.ベルヌ 作 朝倉剛 訳 福音館書店
中学生 高校生 夏の庭 The Friends 瀬本香樹実 作 徳間書店(新潮社もあり) 「西の魔女が死んだ」 梨木香歩 著 新潮社	「星の王子さま」 サン=テグジュペリ 作 内藤濯 訳 岩波書店 「精霊の守り人」 上橋菜穂子 作 偕成社★ 「あのころはフリードリヒがいた」 ハンス・ペーター・リヒター 作 上田真而子 訳 岩波書店 「エンデュアランス号大漂流」 エリザベス・コーディー・キメル 著 千葉茂樹 訳 あすなる書房	「アンネの日記」 アンネ・フランク 著 深町眞理子 訳 文藝春秋 「影との戦い(ゲド戦記1)」 ル=グウィン 作 清水真砂子 訳 岩波書店★ 「空色勾玉」 萩原規子 作 徳間書店★ 「指輪物語」 J.R.R.トールキン 著 瀬田貞二、田中明子 訳 評論社★ 「素数ゼミの謎」 吉村仁 著 文藝春秋	「ともしびをかかえて上・下」 ローズマリ・サトクリフ 作 猪俣葉子 訳 岩波書店★ 「夜のピクニック」 恩田陸 著 新潮社 「科学と科学者のはなし 寺田寅彦エッセイ集」 池内了 編 岩波書店

◆ふれあい読書「家読(うちどく)」のススメ

家庭でのふれあい読書を意味する「家読(うちどく)」は、読書を通して、家族の絆やコミュニケーションを深めることを目的とし、方法は自由に、各家庭で本の楽しみ方があります。

- 家族で同じ本を読み、感想を話す
- 家族で絵本を読みながら楽しい時間を過ごす
- 大人が子どもに本を読み聞かせる
- 家族で読書の日や読書タイムを設ける
- 子どもが大人や家族に本を読む
- 大人が子どもに読書の思い出を語る など

- 対象年齢は目安です。シリーズや続編もおすすめしたい作品には、出版社名に★印がついています。
- ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。
- このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。

発行/千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
 〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号 TEL:043-223-4072 FAX:043-222-3565
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html>



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

0~2歳



「きんぎょがにげた」

金魚鉢から逃げた金魚が、カーテンの模様にも隠れ、植木鉢の花にも隠れ、キャンディの中に隠れては、また逃げ、最後に金魚は、「もうにげないよ」と仲間と一緒に池で泳ぐ。挿し絵あそびと「こんどはどこ」の繰り返しの言葉が楽しい。

五味太郎 作
福音館書店

「がたんごとん がたんごとん」

「がたんごとん がたんごとん」とやってきた汽車に、「のせてください」と乗りこものは、ほにゅうびん。そして、コップやスプーンも次々と…。リズム感のある言葉やくり返しのおはなしが、心と体を弾ませる絵本。

安西水丸 さく
福音館書店

「かぼくん」

日曜日の動物園。11時になっても寝ているかぼは、「おきてくれかぼくん」と男の子に声をかけられる。たくさん見物客がやってきて、なんだかうるさいと思ったり、キャベツを丸ごと食べたり。簡単な文章と温かみのある絵でかぼの1日を描いた楽しい絵本。

岸田裕子 さく
中谷千代子 え
福音館書店

「ゆうびんやのくまさん」

郵便屋のくまさんは1人暮らし。クリスマスもいつものように配達に出かけ、行く先々で喜ばれる。家に帰るとお風呂に入り、ご飯を食べながら自分あての小包の中身を考え、ベッドに入る。きちんとしたくまさんの一日には楽しさとともに安心感がある。

フィビと
セルビ・ウォーゾン
さくえ
まさきりこ やく
福音館書店

「だるまちゃんとてんくちゃん」

てんくちゃんを持ちものと同じものを欲しがるだるまちゃん。おとつさんのだるまちゃんが出してくれるものはどれも違う。団扇、帽子、履き物、花、結局だるまちゃんは家の中から自分なりに似たものを探した。だるまさんが出す沢山の物の絵も楽しい。

加古里子 さくえ
福音館書店

「めつきらもつきらどおんどん」

神社まで行ったけれど遊ぶ友だちが誰もいないかんた。大声でめつきらもつきらもつきらと、へんてこりんな化粧がいたる不思議な世界へ。ももんぱやっこやっかがもつかが、おたからまんちんとかんたの大冒険。ダイナミックな挿絵も魅力的。

長谷川摂子 作
ふりやなな 画
福音館書店

「ちいさなねこ」

おがあさんねこの見ていない間に、こねこが部屋から飛び出した。こどもにつかまりそうになったり、車にひかれたり、ハラハラドキドキのこねこの冒険を描く。小さな子どもの心にそった1冊。

石井桃子 さく
横内薫 え
福音館書店

「いないいないばあ」

ねこ、くま、きつねが次々に出てきて「いないいない」と言った後、ページをめくると「ばあ」の顔をする。その繰り返しで心地よく、赤ちゃんの笑顔を誘う。最後に「いないいないばあ」をするのは誰かな? 1967年発行のロングセラー。

松谷みよ子 文
瀬川康男 え
童心社

「しろくまちゃんのほっとけーき」

しろくまちゃんがお母さんと一緒にホットケーキを作る。材料を描え、フライパンを火にのせて、びちびち、ぶつぶつ、焼けたかな? そして、くまちゃんを呼んで、2人で食べ、お皿も洗う。作る面白さ、共に食べる楽しさが伝わってくる。

わかやまけん さく
こくま社

「おつきさまこんばんは」

暗くなった空にまん丸いお月さまが顔を出した。雪が出てきてお月さまを隠した。再び顔を出すお月さま。正面を覗いたお月さまの表情とストーリーで赤ちゃんの心をつかめ絵本。

林明子 さく
福音館書店

「おおきなかぶ」

おじいさんの植えたかぶは、とてつもなく大きくとてつもなく一人では抜けない。おはあさんやまご、ねこやねずみを呼んできて、力を合わせて「うんとこしょどっこいしょ」、やっと抜けたときの達成感とリズム感のある言葉の響きが楽しめるロシアの昔話。

A.トルストイ 再話
内田莉紗子 訳
佐藤忠良 画
福音館書店

「もりのなか」

紙の帽子にらっぱをもった「ぼく」が森へ散歩に出かけると、らいおん、ぞう、くま、色々な動物が行列を作ってついてくる。はんかちおとしや「ろんどんばしおちた」で遊んだあと、かくれんぼをする…。黒一色と地味だが、幼い子の空想の世界を描いている。

マリー・ホール・エツ
ぶんえ
まさきりこ やく
福音館書店

「しょうぼうじどうしゃじふた」

じふたは、ジープを改良した小さな消防車。大きい火事では出動できず、仲間の消防車たちやこどもたちも誰も気がかけてくれない。ある日山小屋が火事になり、じふたは山道を登って大活躍する。小さくても働き者のじふたの姿が子どもの共感をよぶ。

渡辺茂男 さく
山本忠敬 え
福音館書店

「ふゆめがっしょうだん」

冬の公園や雑木林で、木の芽を見てごらん。ほら、よく見るとウサギがいたりコアラがいたり。動物たちの顔に見えるところは落葉した葉の柄がついていた跡。身近に見られる木の芽の姿を拡大して写した愉快な写真絵本。写真に添えられた言葉も楽しい。

富成忠 茂木透 写真
長新太 文
福音館書店

「すてきな三にんぐみ」

黒マントに黒い帽子がトレードマークの泥棒三人組。誘拐した女の子に、お宝の使い道を聞かれ、思いついたことは、前半の泥棒の怖い印象とは違って、後半は心温まる、すてきなお話。

トニー=アングラー さく
いまよしとち やく
偕成社

「にんじん」

「にんじんのすきなこたあれ」の商いかけに次々と登場するのは、馬やきりん、いろいろな動物たち。「ああ、おいしい」と、みんなにんじんが大好きと、うれしそうに食べている。独特の質感の切り絵が楽しい絵本。

せなけいこ さくえ
福音館書店

「とどけこうよがあげた」

「とどけこう よがあげた…ト」やさしい歌で、寝ている動物たちを起こして歩くのはニワトリさん。最後はみんないっしょに「おはよう」。赤ちゃんの自覚の時に歌ってあげたい、わらべ歌絵本。

こばやしえみこ 案
ましまつこ 絵
こくま社

「三びきのやぎの がらがらどん」

3匹のやぎの がらがらどんが、山の草を食べてまると山を登る。途中の谷川に住む怪物の「ロル」が、「きさまをひとのみにしてやるぞ」となるが、小さいやぎと二番目のやぎが機転を利かせて逃れたあと、大きいやぎが「ロル」を谷川へ突き落とす。

マーシャ・ブラウン え
せたていじ やく
福音館書店

「どろんこハリー」

おふる嫌いな黒いぶちのある白いハリー。外で遊んで真っ黒になり家に帰るが、得意の芝居を披露しても家族は誰もわからない。そこで、プランを握り出し、自分からおふるに入れてお願ひする。ユーモアにあふれた絵とストーリーが子どもをひきつける。

ジーン・ジオン ぶん
マーガレット・ブレイク・グレアム え
わたなべしげお やく
福音館書店

「ピーターのいす」

ピーターに妹ができて、自分のゆりかごやおもちゃがピンク色に塗られてしまう。居場所をなくしたと感じるピーターは大好きなものをすべて家出し、塗り替えられていない青い椅子に座ろうとするが…。妹を受け入れるまでのピーターの気持ちが貼る絵で描かれる。

エズラ=ジャック=キーツ
さくえ
きしまはじめ やく
偕成社

「もこ もこもこ」

「もこ」や「よきによき」という不思議な言葉のリズムと、それにふさわしい絵が子どもの純粋な感覚を刺激する絵本。赤ちゃんから小学生まで幅広く楽しめる。

たにかわしゅんたろう さく
もとながさだまさ え
文研出版

「おおかみと七ひきのこやぎ」

お母さんやぎの留守におおかみは七ひきのこやぎをだまし、柱時計の歯に隠れたこやぎを残して丸飲み。お母さんやぎは野原で寝ているおおかみを見つけ、おなかをはさみで切ると…。落ち着いた色の絵が魅力。

グリム童話
グリム [編]
フェリクス・ホフマン え
せたていじ やく
福音館書店

「じゃあじゃあびりびり」

自動車が「ぶーぶーぶーぶー」、水が「じゃあじゃあ」、紙が「びりびり」。擬音語のリズミカルなくり返しで心地よく、赤ちゃんの興味を引く。シンプルではっきりした絵で、首が座る頃から楽しめる。小型で丈夫な厚紙絵本。

まついりこ さく
偕成社

「くだもの」

みずみずしく描かれたくだものが、ひとつひとつ小さくなって「さあ、どうぞ」。思わず手をのばしてしまうほど、おいしそう。写実的な絵とやさしい語りかけが魅力。

平山和子 さく
福音館書店

3~5歳

「ティッチ」

ティッチは小さな男の子。兄さんと姉さんは自転車を持っているのに、二輪車しか持っていない。案外も大工道具もティッチのものはどれも小さくて…。でも、ティッチの小さな種をまくと、ぐんぐん大きくなり、大逆転の結末にティッチは得意顔になる。

バート・ハッチンス さくえ
いしいももこ やく
福音館書店

「こすずめのぼうけん」

飛び方を教わったばかりのこすずめは、お母さんすずめとの約束を破り、遠くまで飛んでいく。やがて飛び疲れ、海むところを探すが、みつけた鳥の巣では仲間じゃないと断られてしまう。疲れ果てた時、こすずめを探していたお母さんすずめに出会う。

ルース・エインワース 作
石井桃子 訳
堀内誠一 画
福音館書店

「よかったねネッドくん」

田舎のパーティーに招かれたネッドくん。友達に飛行機を借りたものの途中で爆発。誰よりパラシュートで助かるが穴があいて…。「よかった」はカラー「でもたいへん」は白黒のページで、ネッドくんに起こる出来事を交互に描き、幅広い年齢の子が楽しめる。

レミー・チャーリップ さく
やぎたよしこ やく
偕成社

「くまのコールテンくん」

デパートのおもちゃ売り場で売れ残っていたくまのコールテンくんは、大冒険の末、お金持ちではないけれどやさしいリサの家へ。暖かい色の絵で、人とのつながりや、穏やかなくらしの大切さを伝える。

ドン=フリーマン さく
まつおかきょうこ やく
偕成社

「だいくとおにろく」

川に橋を架けることを頼まれた大工。困っているところに出てきたのは川に住む鬼。橋を架けるかわりに白玉をよこせと大工に迫る。大工と鬼のやりとりが何とも楽しい。迫力ある絵が魅力的な昔話絵本。

松原直 再話
赤羽末吉 画
福音館書店

「ころころころ」

いろいろな色だまがいたんみちやさがみちを「ころころころ」と上ったり、下ったり。ページごとに変わる背景と色だまを追っていくと、色だまは終点にたどり着く。鮮やかで動きのある絵とリズムのある言葉を楽しめる。

元永定正 さくえ
福音館書店

「どうぶつのおかあさん」

ねこ、らいおん、さるなどの動物のお母さんが子どもたちを運ぶ。温かみのある絵で動物の赤ちゃんとお母さんの触れ合いを描いた、ゆったりとした気持ちになる絵本。

小森厚 ぶん
小内正幸 え
福音館書店

「わたしのワンピース」

もしも真っ白なきれいな空から降ってきたら? うさぎはミンシでワンピースを作り、それを見て散歩に出かける。すると、あら不思議、お花畑ではワンピースが花模様、雨が降ると水玉模様になる。詩のような「ラランロロロ」の繰り返しも楽しい。

にしまさかやこ えとぶん
こくま社

「てぶくろ ウクライナ民話」

冬の森、おじいさんが雪の上に落とした手袋にねずみがもぐりこむ。かえぬやうさぎ、次々に大きな動物たちが入っていく。きつぎつぎうづめの手袋の隙に「わしも入れてくれ」と、熊までやって来た。動物たちの会話を楽しいウクライナの民話絵本。

エウゲーニー・M・ラチコフ え
うちだりこ やく
福音館書店

「かいじゅうたちのいるところ」

狼の服を着て騒ぎ、お母さんに寝室に放り込まれたマックス。寝室に木が生え抜が打ち寄せ、船に乗り1年と日航海すると、そこは「かいじゅうたちのいるところ」。王様になり、かいじゅうたちと思い切り遊んだマックスは、やがて家が恋しくなり帰ってくる。

モーリス=センダック さく
じんくうてい やく
富山房

「はじめてのおつかい」

初めてお使いを頼まれた5歳のみいちゃん。走る自転車で驚いたり、転んでお金を落としたり。お店でも小さな声しか出せず気づかれない。やっと頼まれた牛乳を買って帰ると、坂の下でママと赤ちゃんが待っていてくれた。初めての体験を子どもの視点で暖かく描く。

岡井頼子 さく
林明子 え
福音館書店

「くりとくら」

いつも仲良くくりとくら。2匹が森を散歩していると大きな卵を発見。お料理好きのくりとくら。2匹が力を合わせて何ができるかな? 絵本からとって、おもしろいようにおいかけてきそう。子どもの心に残る1冊。

なかむらえこ さく
おおむらゆりこ え
福音館書店★

